



## 国際的な発言を強めるブラジルと BRICs 間の連携

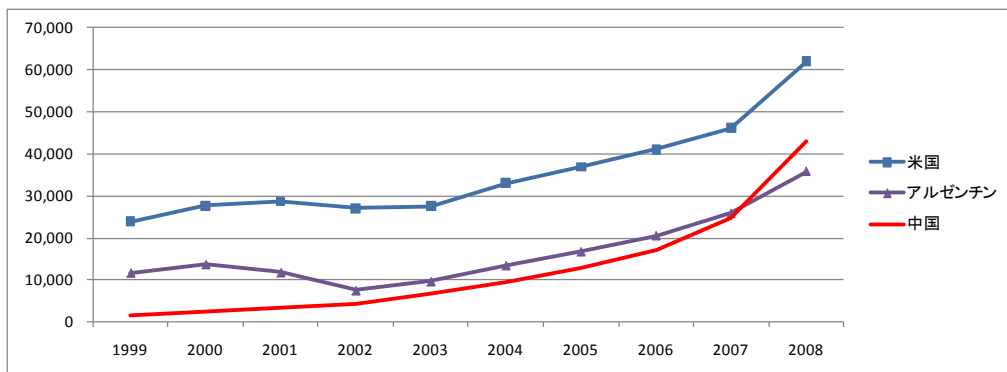
経済調査部 上席研究員 松井 謙一郎

ブラジルは、BRICs の中では民族紛争が無い事や民主政治が定着している点では優位だが、成長率の低さ・国内市場の規模などの点で相対的な注目度は低かったと言える。このような中で、グローバル金融危機以降の経済的な安定やオリンピック開催決定などを背景に、最近改めて同国への注目度が増している。このような同国の国際的なプレゼンス増加の背景には、ブラジルが取り組んできた BRICs との連携強化の蓄積が大きな梃子となってきたと言える。

BRICs との連携強化は、現在のルーラ政権が 2003 年の就任以降重点的に推進してきた外交政策だが、特に中国との連携強化が注目されてきた。中国の資源・食糧需要の増大を背景に中国との貿易量は急増し、2008 年には中国はアルゼンチンを抜いて、米国に次ぐ第 2 の貿易相手国となった。このように近年の両国間の貿易拡大の中で協力関係が強化されてきた。ルーラ大統領は昨年 5 月に中国を訪問した際、国際金融問題・気候変動問題・エネルギー食糧問題等の国際社会の重要な問題に対応するための、両国政府の緊密な連携と共同行動計画の制定の合意を発表するなど、より幅広く緊密な形での協力関係を模索している。

(図表 1)

ブラジルの主要取引国との貿易量の推移 (輸出入合計、単位:百万ドル)



(出所) IMF の DTS(Direction of Trade Statistics)のデータベースより作成

貿易量が圧倒的に多い中国だけでなく、インド・ロシアとの連携強化も着実に進められてきた。

インドとの間では、経済・政治の両面で連携強化が図られてきた。2006 年の両国の首脳会談では両国間の貿易額を 2010 年までに 4 倍に増やす事が合意された。インドとの協力の大きな柱として位置付けられてきたのがバイオエタノールである。インドはバ

イオエタノールの原料であるサトウキビの有数の生産国であるが、燃料技術の移転や農業生産性の向上の形でブラジルがインドを支援していく事が想定されている。また両国は、2005年に安全保障理事会入りを目指すG4のグループを日本・ドイツと共に結成した。更に、ブラジルとインドは南アフリカを加えた3か国で2006年にIBSA(India, Brazil, South Africa)を結成した。IBSAは新興国の代表的な民主主義国家として国連安保理の常任理事国入りを目指すと共に、航空宇宙産業での3か国それぞれの強みを生かした協力を打ち出すなど、経済面でも連携を強めてきた。IBSA諸国の国連安保理の常任理事国入りは実現していないが、3か国間の貿易額は着実に増加するなど、堅実に成果を挙げてきた。

一方でロシアとの連携においては、2004年のプーチン大統領のブラジル訪問以降は、米国への牽制の意味もあって軍事面での協力を連携の重点に位置付け、2008年には軍事協力のための包括的な協定が結ばれている。並行して、両国の貿易額も急速に拡大して貿易額の合計ではロシアはインドを上回るまでに増加しており、このような中で自国通貨による貿易決済促進が協議されている。

(図表2) ブラジルのBRICs・南アフリカとの貿易量の推移 (輸出入合計、単位:百万ドル)

	相手国	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
輸出	中国	2,520	4,533	5,440	6,834	8,400	10,749	16,403
	インド	654	553	652	1,137	937	958	1,102
	ロシア	1,252	1,500	1,658	2,917	3,443	3,741	4,653
	(南アフリカ)	478	733	1,036	1,369	1,459	1,758	1,755
輸入	中国	1,710	2,362	4,081	5,889	8,788	13,880	26,603
	インド	631	535	612	1,323	1,621	2,381	4,577
	ロシア	470	611	889	794	1,037	1,880	4,372
	(南アフリカ)	200	222	295	376	478	575	1,051

(出所) IMFのDTS(Direction of Trade Statistics)のデータベースより作成

このように、ブラジルにとってBRICsとの連携強化は、国際的なプレゼンス拡大のための戦略上の柱になってきたと言える。しかしながら、BRICsの中でも中国の動きに専ら注目が集まる中で、ブラジルのこのような動きは、ごく最近までは余り注目されなかったとも言えよう。中国の周小川総裁が昨年4月のG20を前にSDRの幅広い活用提案を行った事が広く注目を集めたが、その後6月にロシアで開催されたBRICs諸国の首脳会議(いわゆるBRICsサミット)では、ブラジルもIMFが発行するSDR建て債券の購入を表明した。中国の提案に呼応する形でブラジルも準備資産の運用多様化とドル離れの動きを見せたものだが、BRICsとして中国の提案に追随したという形で一般的には捉えられているように思われる。

最近注目度が急速に高まる中で、ブラジルはBRICsの牽引役の立場に回って国際的な発言力を強める動きを見せてきている。同国は急激なレアル高に歯止めをかけるために昨年10月下旬に投資資金の流入に2%の課税を行う事を発表した。同国は、これをレアル高への対応という個別国の措置として捉えるのではなく、今後G20などの場でも国際資本移動取引への課税の問題を取り上げていくとしている。最近、ロシアやアジア諸国などでも資金流入への規制措置検討の動きが相次いでいるが、ブラジルがこのような新興国の動きを先導したものと言える。一方で、昨年11月のルーラ大統領のイランの核開発の権利を認める発言や中東和平への関与の意欲の表明に対しては、米国からだけでなく国内からも問題視する意見が相次いだ。

このように、同国は今後も新興国のリーダーを目指す模索を続けていくであろうが、

その道程は必ずしも平坦なものではなく、失敗した場合のリスクも同国のプレゼンスの増加に比例してより大きいものになっていくであろう。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2010 Institute for International Monetary Affairs (財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-Chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>